

鳥取県の推計人口

【令和元年10月1日現在】

令和元年10月31日公表

鳥取県令和新時代創造本部統計課

目 次

用語の説明	1
利用上の注意	2
調査結果の概要	
I 鳥取県の推計人口	
1 推計人口と世帯	3
2 年齢3区分別人口	4
II 人口動態	
1 概況	7
2 自然動態	
(1) 自然動態の推移	7
(2) 月別自然動態	8
3 社会動態	
(1) 社会動態の推移	8
(2) 月別社会動態	9
(3) 都道府県別(外国を含む)、男女別社会動態	9
(4) ブロック別の県外転入・転出	11
(5) 都道府県別(外国を含む)転入・転出超過数	11
(6) 年齢5歳階級別、男女別社会動態	12
III 市町村別推計人口	
1 市町村別の推計人口	13
2 年齢3区分別人口	
(1) 年少人口	14
(2) 生産年齢人口	14
(3) 老年人口	14
IV 市町村人口動態	
1 人口増減	15
2 自然動態	
(1) 市町村別自然動態	16
(2) 月別自然動態	17
(3) 男女別自然動態	17
3 社会動態	
(1) 市町村別社会動態	18
(2) 県内移動	19
(3) 県外転入・県外転出	20
(4) 4市における年齢5歳階級別、男女別県外転入転出	21
＜参考＞外国人の推計人口	25

用語の説明

1 人口性比

女性を100としたときの男性の割合

2 年少人口

0歳～14歳の人口をいう。

3 生産年齢人口

15歳～64歳の人口をいう。

4 老年人口

65歳以上の人口をいう。

5 年少人口指数

年少人口の生産年齢人口に対する比率をいう。

$$\text{年少人口指数} = \frac{\text{年少人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

6 老年人口指数

老年人口の生産年齢人口に対する比率をいう。

$$\text{老年人口指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

7 従属人口指数

年少人口と老年人口が生産年齢人口に対して占める比率をいう。

$$\text{従属人口指数} = \frac{\text{年少人口} + \text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

8 老年化指数

老年人口の年少人口に対する比率をいう。

$$\text{老年化指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$$

9 動態

- (1) 人口動態…自然動態と社会動態を合わせた人口の動きをいう。
- (2) 自然動態…一定期間における出生及び死亡に伴う人口の動きをいう。
- (3) 社会動態…一定期間における転入及び転出に伴う人口の動きをいう。

10 移動

- (1) 移動者総数…県内移動者数(県内市町村間の転出入)と県外移動者数(県内外の転出入)を合計した数をいう。
- (2) 実移動者総数…県内市町村間の転入者数と県外移動者数を合計した数をいう。
- (3) 県内転入者数…県内の市町村から県内の他の市町村へ転入した者の数をいう。
- (4) 県内転出者数…県内の市町村から県内の他の市町村へ転出した者の数をいう。この調査の県内移動については、転入だけを調査している。このため転出については、従前の住所地(市町村)により、算出した数である。
- (5) 県外転入者数…県外(外国を含む)の市町村から県内の市町村へ転入した者の数をいう。
- (6) 県外転出者数…県内の市町村から県外(外国を含む)の市町村へ転出した者の数をいう。
- (7) 転入・転出超過数…転入者数から転出者数を差し引いた数で、プラスの場合を転入超過、マイナスの場合を転出超過という。

11 出生率及び死亡率

- (1) 出生率…人口に対する出生数の千分率(パーミル【‰】)をいう。
- (2) 死亡率…人口に対する死亡数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

1 2 移動者の年齢

令和元年10月1日現在の満年齢による。

1 3 自然増減数

出生者数から死亡者数を差し引いた数をいう。この場合、プラスは自然増加といい、マイナスは自然減少という。

1 4 自然増減率

人口に対する自然増減数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

1 5 社会増減数

転入者数から転出者数を差し引いた数をいう。この場合、プラスは社会増加といい、マイナスは社会減少という。

1 6 社会増減率

人口に対する社会増減数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

1 7 ブロック別区分

北海道…北海道

東 北…青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

関 東…茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中 部…新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近 畿…滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中 国…島根県、岡山県、広島県、山口県

四 国…徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九 州…福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

1 8 地域別区分

東 部…鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町

中 部…倉吉市、三朝町、湯梨浜町、琴浦町、北栄町

西 部…米子市、境港市、日吉津村、大山町、南部町、伯耆町、日南町、日野町、江府町

1 9 市郡別

市 部…鳥取市、米子市、倉吉市、境港市

郡 部…岩美郡、八頭郡、東伯郡、西伯郡、日野郡

利 用 上 の 注 意

- 1 鳥取県人口移動調査は、「住民基本台帳法」の規定により届出された者を対象に、出生数及び死亡数、転入者数及び転出者数を、それぞれ住民票の異動日を基準として各月ごとに調査したものである。なお、県内移動については、転入日をもって転出日としている。
- 2 推計人口とは、平成27年国勢調査結果を基に、各市町村から報告のあった各月の調査結果より推計したものである。
- 3 人口及び世帯の移動数は、平成30年10月から令和元年9月までの年間数値であり、市町村表記は令和元年9月末現在のもの記載している。

調査結果の概要

I 鳥取県の推計人口

1 推計人口と世帯数

鳥取県の推計人口は555,663人で、前年に比べ4,854人減少し、平成8年以降24年連続の減少となった。

令和元年10月1日現在の鳥取県の推計人口は、前年比4,854人減の555,663人となった。

昭和50年(581,311人)以降の推移をみると、昭和63年の616,371人をピークに減少傾向となり、平成6年及び7年に増加したものの、平成8年以降は24年連続の減少となった。この間、平成20年に60万人台、平成22年に59万人台、平成25年に58万人台、平成28年に57万人台を割り、平成29年から平成30年は56万人台で推移し、令和元年では55万人台となった。

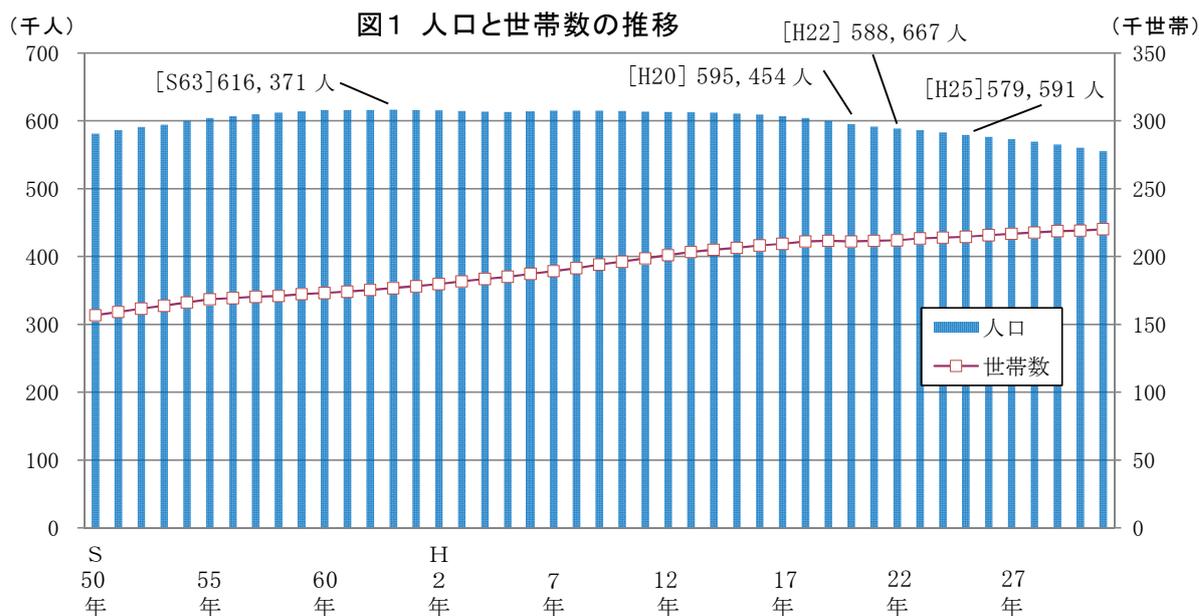
男女別人口をみると、男性265,710人、女性289,953人で、人口性比は91.6となった。

外国人の推計人口(国籍不詳を含む。以下同じ。)は6,848人(県の推計人口に占める割合は1.2%)で前年と比べ502人増加し、4年連続の増加となった。男女別に見ると、男性2,749人、女性4,099人となり、人口性比は67.1となった。

世帯数は、220,185世帯で、この1年間で897世帯増加した。

昭和50年(156,826世帯)以降増加が続き、平成12年では20万世帯を超え、令和元年では過去最大となり、1世帯当たりの人員は2.52で減少が続いている。

(図1、表1、表2、統計表第1表)



注1) 各年の人口は10月1日現在の人口による。

注2) 表示年は国勢調査実施年で国勢調査人口、その他の年は国勢調査を基準として推計した人口である。

表1 推計人口と世帯数(過去5年間の推移)

年	人口			人口増減				人口性比	世帯数	1世帯当たりの人員
	総数	男	女	総数	男	女	率			
H27年	5,448	2,125	3,323	-980	-707	-273	-15.25	63.9	216,894	2.64
	573,441	273,705	299,736	-3,185	-1,463	-1,722	-0.55	91.3		
H28年	5,722	2,238	3,484	274	113	161	5.03	64.2	217,890	2.61
	569,579	271,898	297,681	-3,862	-1,807	-2,055	-0.67	91.3		
H29年	5,985	2,354	3,631	263	116	147	4.60	64.8	218,731	2.58
	565,233	270,049	295,184	-4,346	-1,849	-2,497	-0.76	91.5		
H30年	6,346	2,552	3,794	361	198	163	6.03	67.3	219,288	2.56
	560,517	267,885	292,632	-4,716	-2,164	-2,552	-0.83	91.5		
R元年	6,848	2,749	4,099	502	197	305	7.91	67.1	220,185	2.52
	555,663	265,710	289,953	-4,854	-2,175	-2,679	-0.87	91.6		

注1) 上段は外国人で内数

注2) 外国人は国籍不詳を含む

2 年齢3区分別人口

年齢3区分別の構成割合は、年少人口は12.6%、生産年齢人口は55.4%で過去最低、老年人口が32.0%で過去最高となった。

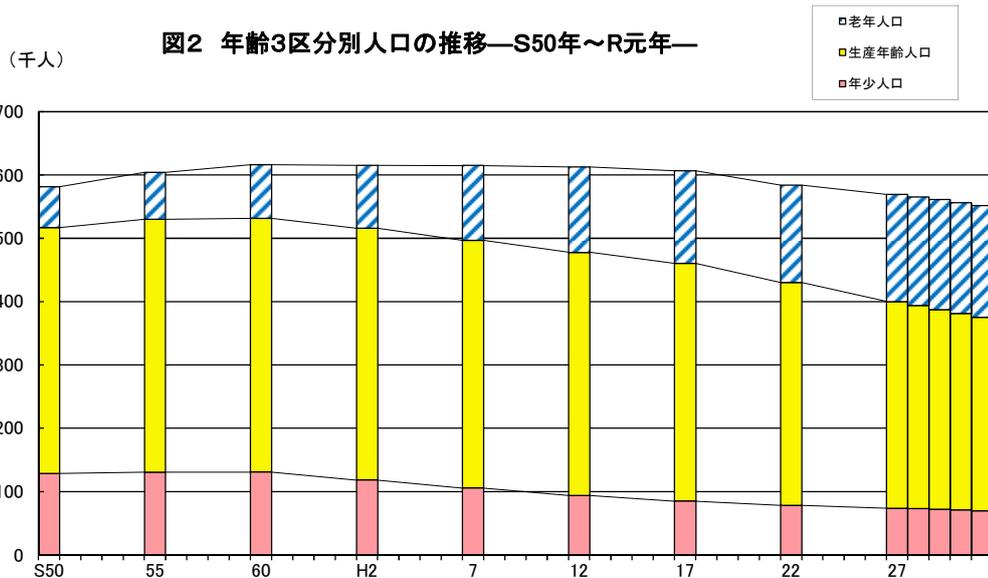
年齢3区分別にみると、年少人口は69,569人で前年（平成30年10月1日現在）と比べ1,139人減少、生産年齢人口は305,232人で4,825人減少、老年人口は176,499人で1,110人増加した。（年齢3区分人口に年齢不詳は含まない。以下同じ。）

昭和50年以降の推移をみると、年少人口は昭和60年の130,668人をピークに減少となり、平成12年では10万人を割り減少が続いている。生産年齢人口は昭和60年の400,717人まで増加を続けていたが、それ以降減少が続いている。老年人口は増加が続いており、平成7年に10万人台、平成28年からは17万人台となった。

人口構成割合を前年と比べると、年少人口は12.6%で0.1ポイント低下し、生産年齢人口は55.4%で0.4ポイント低下し、ともに過去最低となった。老年人口は32.0%で0.5ポイント上昇し、過去最高となった。

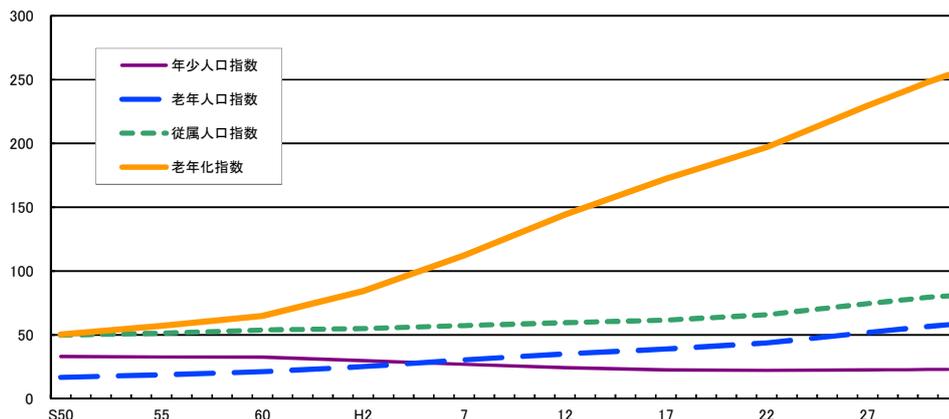
年齢構成指数を前年と比べると、生産年齢人口の扶養負担程度を表す従属人口指数（年少人口と老年人口の合計の生産年齢人口に対する比率）は80.6で1.2ポイント上昇、年少人口指数（年少人口の生産年齢人口に対する比率）は22.8で増減なし、老年人口指数（老年人口の生産年齢人口に対する比率）は57.8で1.3ポイント上昇した。また、老年化指数（老年人口の年少人口に対する比率）は253.7で5.7ポイント上昇し、老年人口指数、従属人口指数及び老年化指数は過去最高となった。

（図2、図3、図4-1、図4-2、表2、表3、統計表第1表）



注) S50年からH27年までは国勢調査値、H28年以降はH27年国勢調査を基準として推計したものである。

図3 年齢構成指数の推移—S50年～R元年



注) S50年からH27年までは国勢調査値、H28年以降はH27年国勢調査を基準として推計したものである。

図4-1 人口ピラミッド

県全体 555,663人

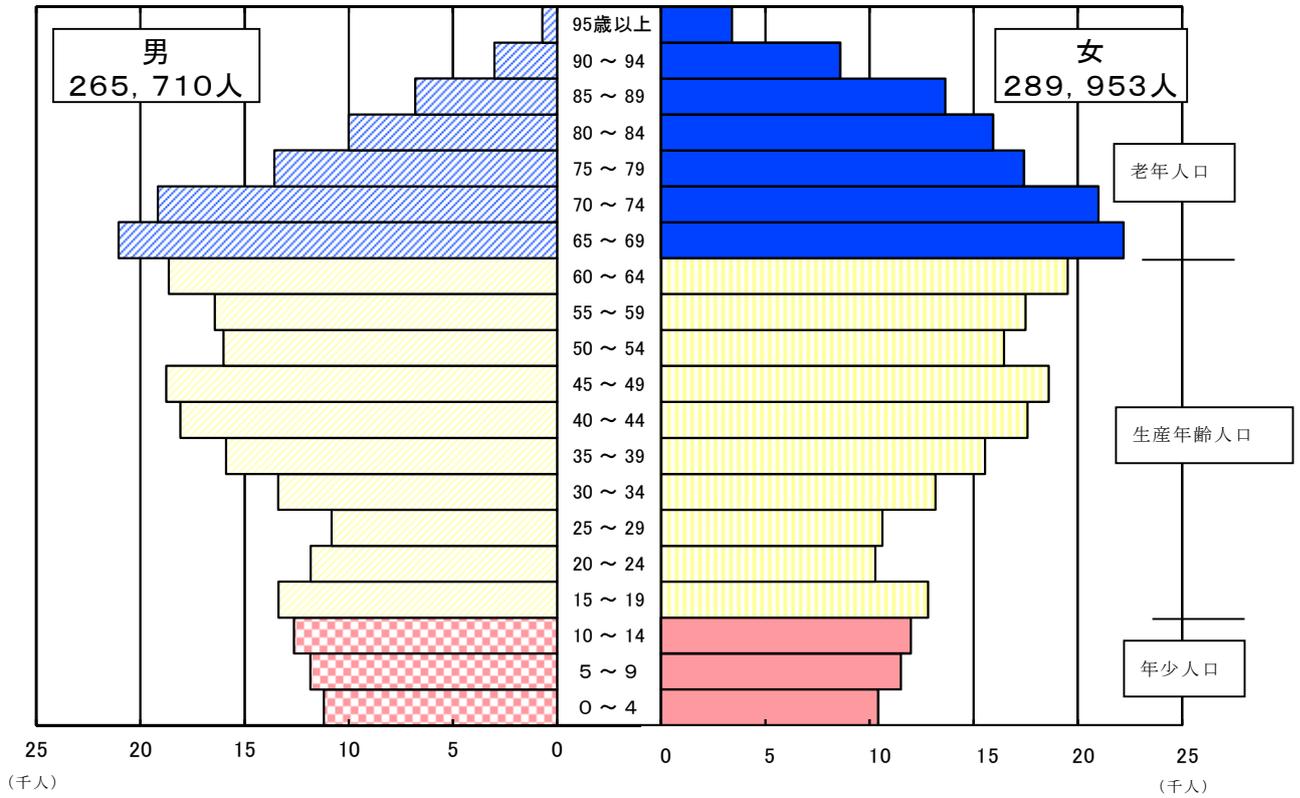
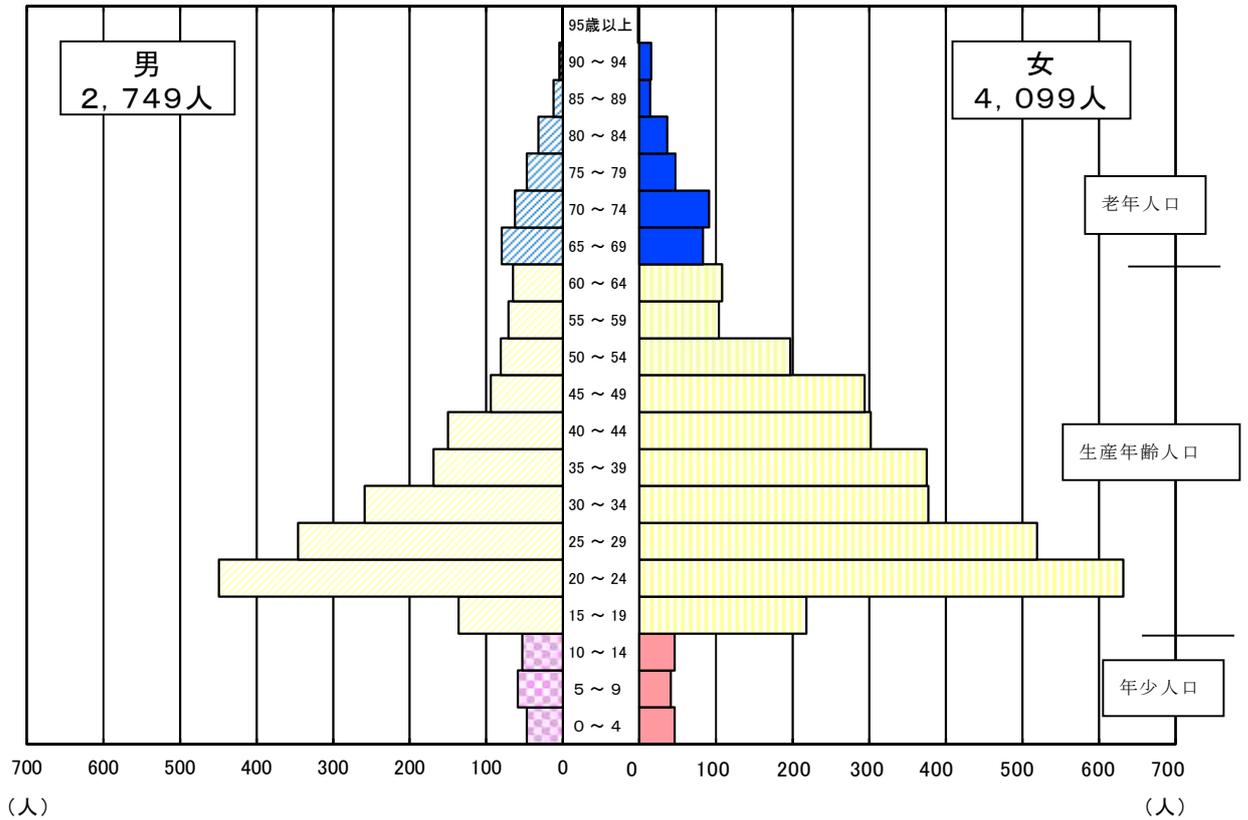


図4-2 人口ピラミッド(外国人)

県全体 6,848人



注) 外国人は国籍不詳を含む

表2 年齢5歳階級別人口

(単位:人)

年齢	総人口				うち外国人人口			
	総数	男	女	人口性比	総数	男	女	人口性比
総数	555,663	265,710	289,953	91.6	6,848	2,749	4,099	67.1
0～4歳	21,615	11,196	10,419	107.5	93	47	46	102.2
5～9	23,338	11,835	11,503	102.9	100	59	41	143.9
10～14	24,616	12,630	11,986	105.4	99	53	46	115.2
15～19	26,178	13,371	12,807	104.4	354	136	218	62.4
20～24	22,097	11,823	10,274	115.1	1,081	449	632	71.0
25～29	21,439	10,819	10,620	101.9	865	346	519	66.7
30～34	26,539	13,387	13,152	101.8	636	259	377	68.7
35～39	31,429	15,889	15,540	102.2	544	169	375	45.1
40～44	35,663	18,081	17,582	102.8	452	150	302	49.7
45～49	37,354	18,757	18,597	100.9	388	94	294	32.0
50～54	32,469	16,012	16,457	97.3	278	81	197	41.1
55～59	33,925	16,427	17,498	93.9	175	71	104	68.3
60～64	38,139	18,642	19,497	95.6	173	65	108	60.2
65～69	43,253	21,060	22,193	94.9	163	80	83	96.4
70～74	40,151	19,166	20,985	91.3	154	63	91	69.2
75～79	30,995	13,579	17,416	78.0	94	47	47	100.0
80～84	25,940	10,015	15,925	62.9	68	32	36	88.9
85～89	20,450	6,812	13,638	49.9	26	12	14	85.7
90～94	11,607	3,008	8,599	35.0	20	5	15	33.3
95歳以上	4,103	706	3,397	20.8	-1	1	-2	-
不詳	4,363	2,495	1,868	133.6	1,086	530	556	95.3

注 1) 外国人は国籍不詳を含む

注 2) 各歳別に年齢不詳は含まない

表3 年齢3区分別人口

(単位:人、%)

年齢	総人口		うち外国人人口	
	年齢3区分別人口	年齢3区分別人口割合	年齢3区分別人口	年齢3区分別人口割合
年少人口(0～14歳)	69,569	12.6	292	5.1
生産年齢人口(15～64歳)	305,232	55.4	4,946	85.8
老年人口(65歳以上)	176,499	32.0	524	9.1

II 人口動態

1 概況

1年間の人口動態は、自然動態、社会動態ともに減少し、前年に比べ138人減少数が拡大した。

令和元年（平成30年10月～令和元年9月）の1年間の人口動態をみると、自然動態は3,550人減、社会動態は1,304人減、合計4,854人の減少となり、前年と比べると、減少数が138人拡大した。（図5、統計表第3表）



2 自然動態

(1) 自然動態の推移

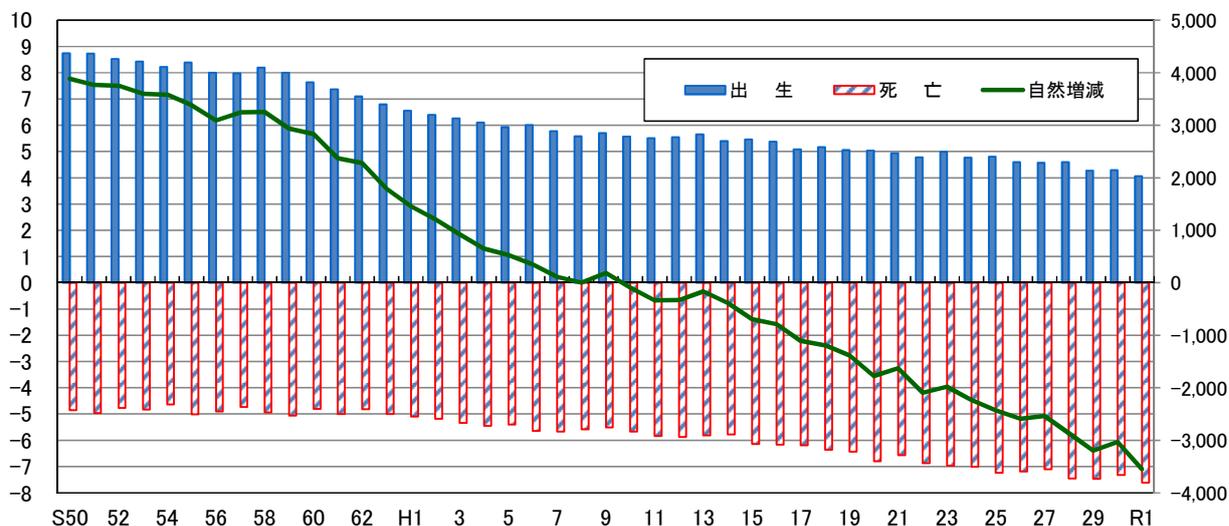
自然増減数は、3,550人減少し、22年連続の減少となった。

出生数は昭和50年（8,735人）以降減少傾向となり、昭和63年からは6,000人台、平成5年からは5,000人台、平成21年からは4,000人台となり、令和元年は4,065人で前年と比べると230人減少した。

死亡数は、平成2年ごろまでは5,000人前後を推移していたが、それ以降は増加傾向となっている。平成15年からは6,000人台、平成25年からは7,000人台となり、令和元年は7,615人で前年と比べると289人増加した。

自然増減数は3,550人の減少で前年と比べ減少数は519人拡大し、22年連続の減少となった。（図6、統計表第3表）

図6 出生数、死亡数の推移 -S50年～R元年



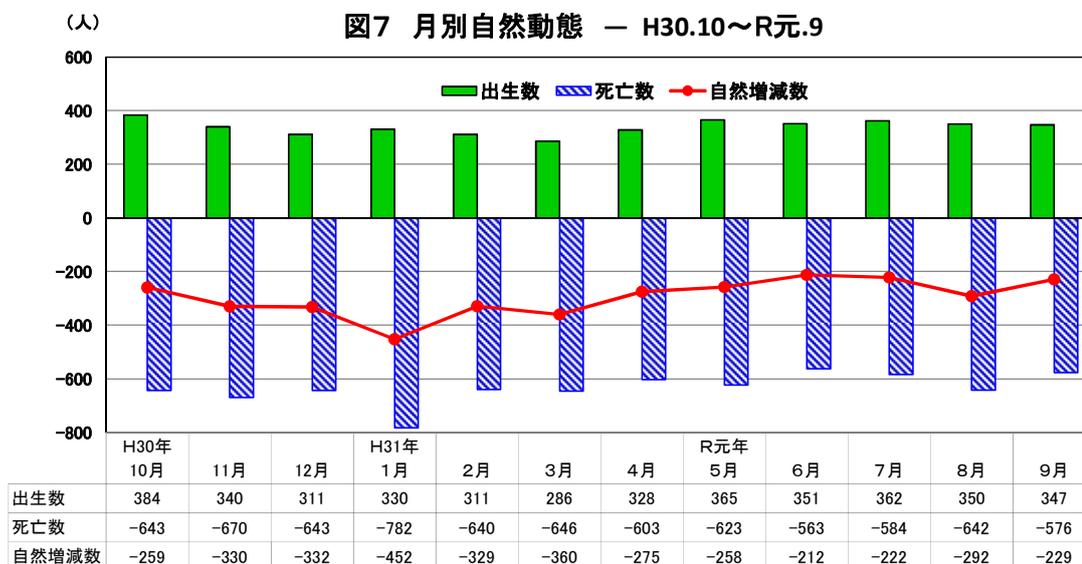
(2) 月別自然動態

自然増減数はすべての月で減少となり、1月の減少数が最も多い

月別にみると、出生数は平成30年10月が384人（出生総数に占める割合9.4%）と最も多く、次いで令和元年5月が365人（同9.0%）、7月が362人（同8.9%）となった。

死亡数は平成31年1月が782人（死亡総数に占める割合10.3%）と最も多く、次いで平成30年11月が670人（同8.8%）、平成31年3月が646人（同8.5%）となった。

自然増減数はすべての月で減少となり、減少数は平成31年1月が452人と最も多かった。（図7、統計表第4表）



3 社会動態

(1) 社会動態の推移

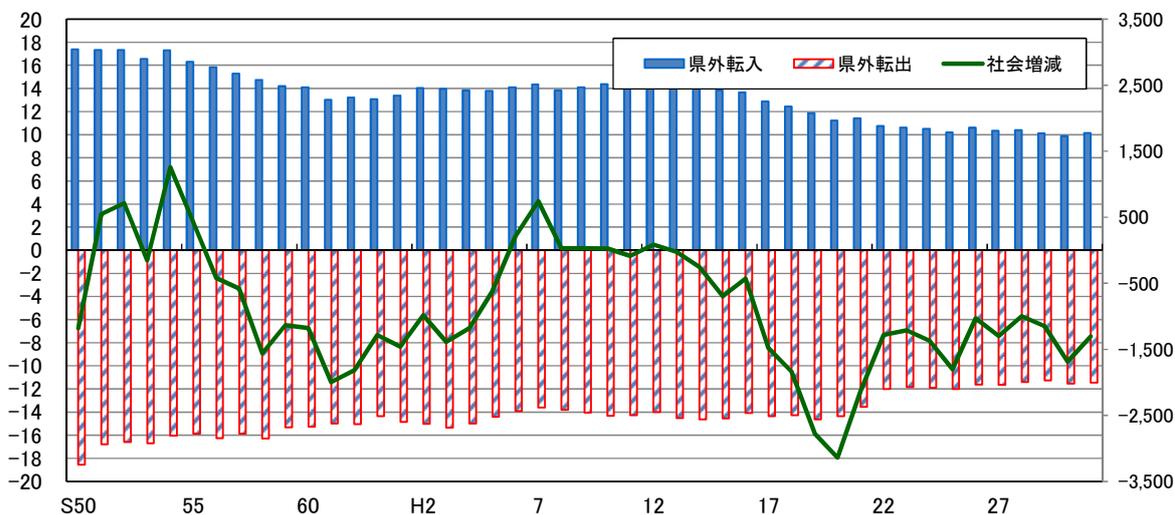
社会増減数は、1,304人減少し、19年連続の減少となった。

令和元年（平成30年10月～令和元年9月）の県外転入者は10,146人、県外転出者は11,450人で社会増減数は1,304人減少した。県内の市町村間を移動した者（県内移動者）は6,205人で実移動者総数は27,801人となった。

前年に比べると、県外転入者が286人増加、県外転出者が95人減少し、社会増減の減少数が381人縮小した。また、県内移動者が23人減少し、実移動者総数が168人増加した。

社会動態の推移をみると、昭和50年以降転入・転出とも減少傾向となり、社会増減数は平成13年以降19年連続で減少した。（図8、統計表第3表、統計表第7表）

図8 県外転出入者数の推移 — S50年～R元年



注) 各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

(2) 月別社会動態

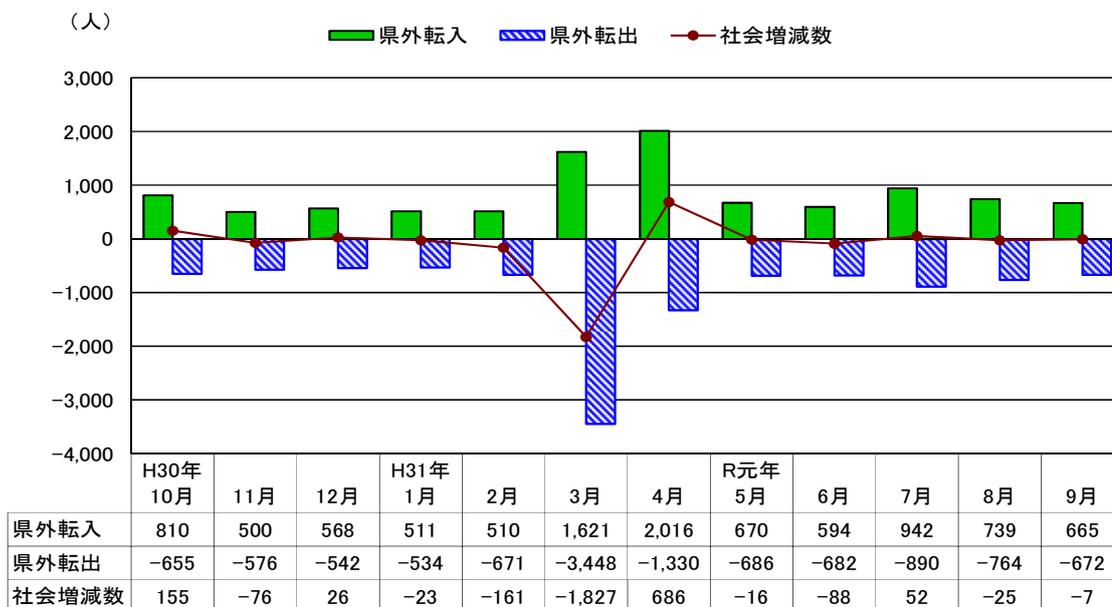
3月及び4月の2か月間で、年間実移動者総数の38.1%を占める

月別にみると、県外転入者は4月が2,016人（県外転入者総数に占める割合19.9%）と最も多く、次いで3月が1,621人（同16.0%）、7月が942人（同9.3%）となった。

県外転出者は3月が3,448人（県外転出者総数に占める割合30.1%）と最も多く、次いで4月が1,330人（同11.6%）、7月が890人（同7.8%）となった。

この結果、4月が686人増加し、3月が1,827人減少し、この2か月間で年間実移動者総数の38.1%を占めている。（図9、統計表第6表）

図9 月別県外転出入者数 — H30.10月～R元.9月



(3) 都道府県別（外国を含む）、男女別社会動態

県外からの転入・転出はともに島根県が最も多く、転入者数1,374人、転出者数は1,339人

都道府県別（外国を含む）にみると、県外転入者は島根県が1,374人（男性733人、女性641人）と最も多く、次いで外国が1,349人（男性549人、女性800人）、岡山県が900人（男性516人、女性384人）となった。

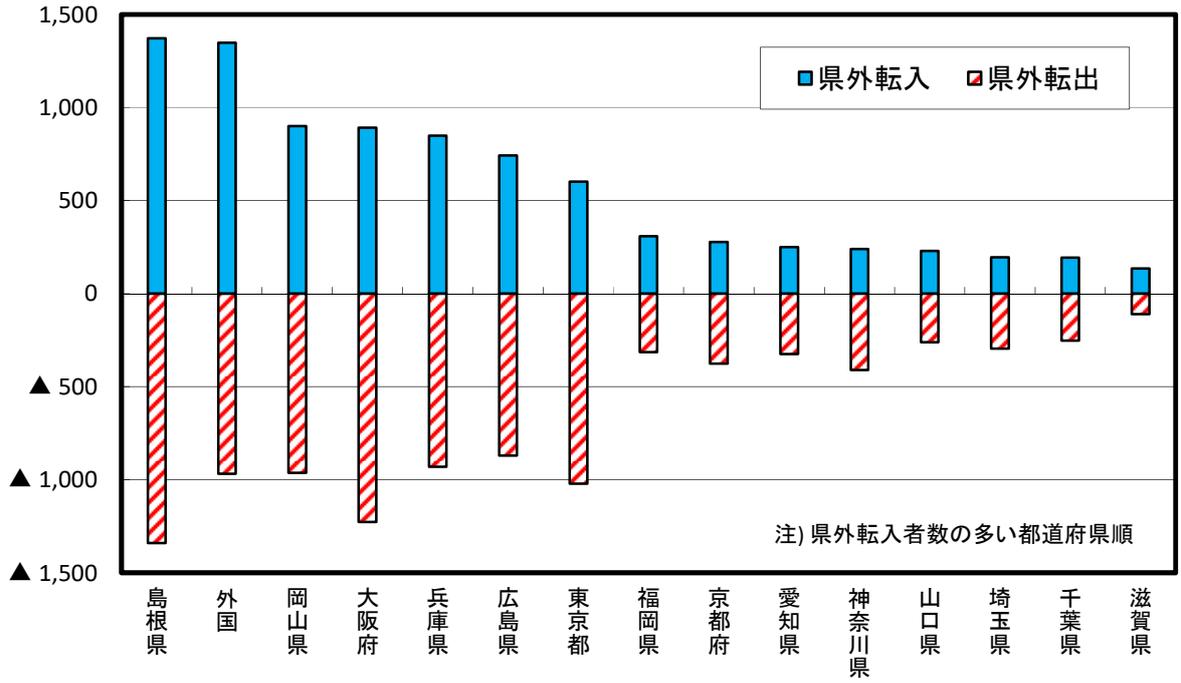
県外転出者は、島根県が1,339人（男性721人、女性618人）と最も多く、次いで大阪府が1,227人（男性603人、女性624人）、東京都が1,020人（男性573人、女性447人）となった。

また、男女別にみると、男性の県外転入者は島根県が733人と最も多く、次いで外国が549人、岡山県が516人となり、県外転出者は、島根県が721人と最も多く、次いで大阪府が603人、東京都が573人となった。

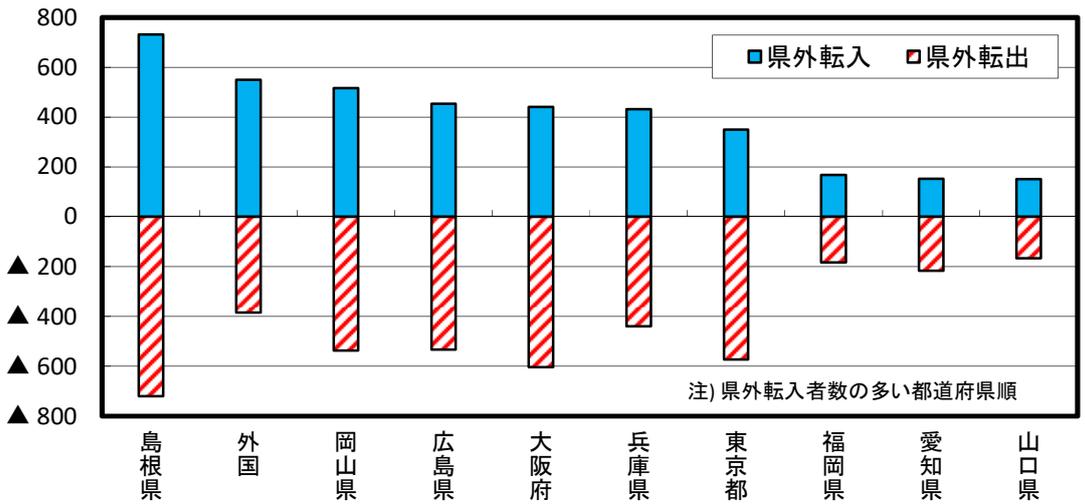
女性の県外転入者は外国が800人と最も多く、次いで島根県が641人、大阪府が452人となり、県外転出者は、大阪府が624人と最も多く、次いで島根県が618人、外国が582人となった。

（図10-1、図10-2、図10-3、統計表第14表）

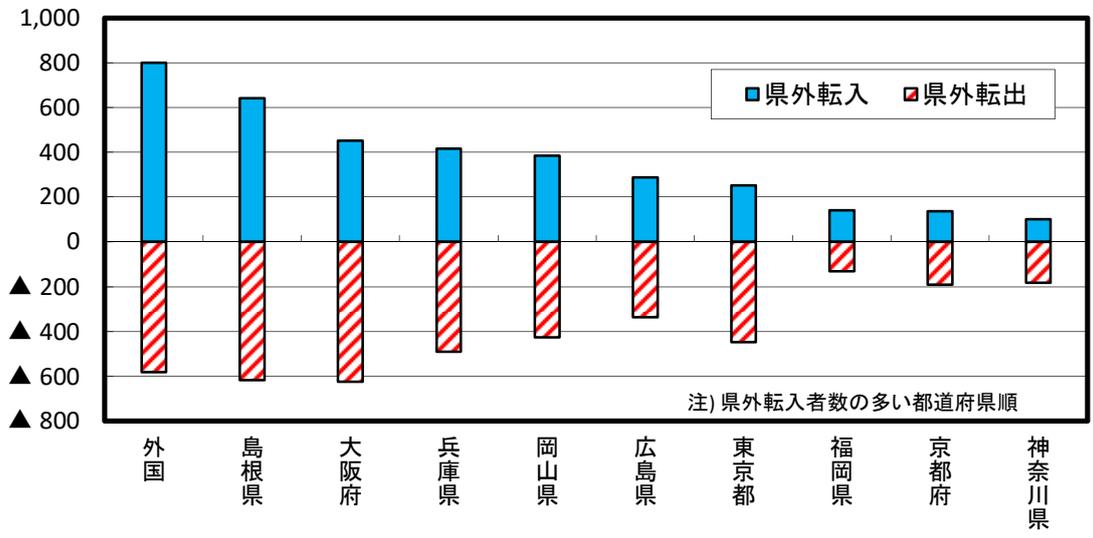
(人) 図10-1 従前の住所地及び転出地の都道府県別転入・転出者数上位15都道府県(総数)



(人) 図10-2 従前の住所地及び転出地の都道府県別転入・転出者数上位10都道府県(男)



(人) 図10-3 従前の住所地及び転出地の都道府県別転入・転出者数上位10都道府県(女)



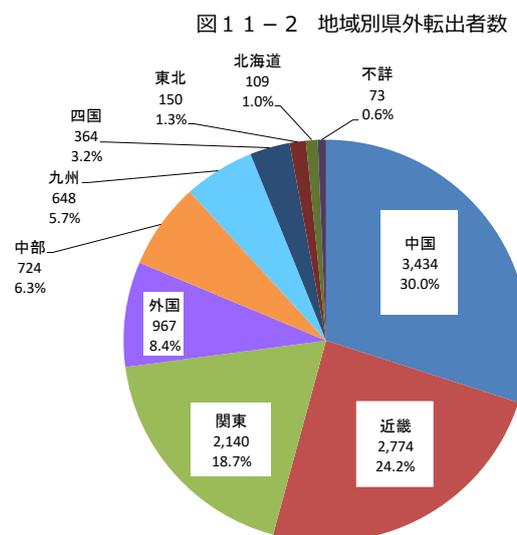
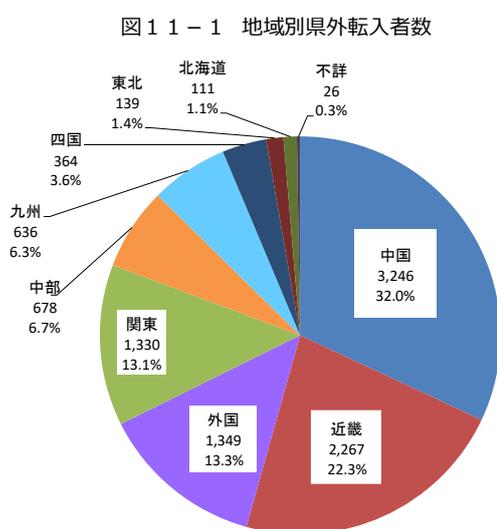
(4) ブロック別の県外転入・転出

ブロック別の県外転入・転出者数とも中国ブロックが最多で、次いで近畿ブロック

ブロック別にみると、県外転入者は中国ブロックが3,246人（男性1,855人、女性1,391人）で最も多く、次いで近畿ブロックが2,267人（男性1,134人、女性1,133人）、外国が1,349人（男性766人、女性564人）となった。

県外転出者は、中国ブロックが3,434人（男性1,957人、女性1,477人）で最も多く、次いで近畿ブロックが2,774人（男性1,356人、女性1,418人）、関東ブロック2,140人（男性1,192人、女性948人）となった。

(図11-1、図11-2)



注) 全国地域区分別の構成都道府県は、以下のとおり。

- 北海道: 北海道
- 東北: 青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
- 関東: 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
- 中部: 新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重
- 近畿: 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
- 中国: 鳥根、岡山、広島、山口
- 四国: 徳島、香川、愛媛、高知
- 九州: 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

(5) 都道府県別（外国を含む）転入・転出超過数

転入超過数は外国が382人、転出超過数は東京都が417人と最も多い

転入超過数は、外国が382人（男性164人、女性218人）と最も多く、次いで島根県が35人（男性12人、女性23人）、滋賀県が25人（男性2人、女性23人）となった。

転出超過数は、東京都が417人（男性223人、女性194人）と最も多く、次いで大阪府が334人（男性162人、女性172人）、神奈川県が169人（男性88人、女性81人）となった。

(図12、統計表第14表)

Ⅲ 市町村別推計人口

1 市町村別の推計人口

推計人口が最も多いのは鳥取市の188,740人、最も少ないのは江府町の2,712人

市郡別にみると、市部の推計人口は416,187人（男性199,701人、女性216,486人、県人口に占める割合74.9%）で、郡部の推計人口は139,476人（男性66,009人、女性73,467人、同25.1%）となった。

市部で推計人口が最も多いのは、鳥取市の188,740人（男性91,774人、女性96,966人、同34.0%）で、次いで米子市の147,667人（男性70,063人、女性77,604人、同26.6%）となった。

郡部で推計人口が最も多いのは、琴浦町の16,525人（男性7,725人、女性8,800人、同3.0%）で、次いで湯梨浜町の16,108人（男性7,681人、女性8,427人、同2.9%）となった。

また、最も少ないのは、江府町の2,712人（男性1,260人、女性1,452人、同0.5%）で、次いで日野町の2,906人（男性1,330人、女性1,576人、同0.5%）となった。

過去5年間（平成27年～令和元年）の市町村別の推計人口の推移をみると、日吉津村を除く18市町で減少している。

日吉津村は平成27年以降毎年増加していたが、令和元年は減少となった。

（表4、統計表第8表、第8-1表）

表4 市町村別年齢3区分別人口と世帯数（過去5年間の推移）

（単位：人、世帯）

区分	総人口					年齢3区分別人口			世帯数	1世帯当たりの人員
	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	年少人口	生産年齢人口	老年人口		
市計	426,248	424,203	421,732	418,935	416,187	53,427	234,711	123,795	170,776	2.44
郡計	147,193	145,376	143,501	141,582	139,476	16,142	70,521	52,704	49,409	2.82
東部地区	232,610	230,928	229,320	227,195	225,081	28,022	126,815	68,324	90,530	2.49
中部地区	104,320	103,203	102,141	101,045	99,935	12,657	52,565	34,478	37,236	2.68
西部地区	236,511	235,448	233,772	232,277	230,647	28,890	125,852	73,697	92,419	2.50
鳥取市	193,717	192,658	191,601	190,090	188,740	24,138	108,255	54,437	77,431	2.44
米子市	149,313	149,178	148,720	148,262	147,667	19,424	83,445	42,690	61,585	2.40
倉吉市	49,044	48,558	47,980	47,439	46,943	5,856	24,903	16,026	18,600	2.52
境港市	34,174	33,809	33,431	33,144	32,837	4,009	18,108	10,642	13,160	2.50
岩美町	11,485	11,343	11,263	11,108	10,919	1,183	5,700	4,035	4,038	2.70
若桜町	3,269	3,209	3,130	3,055	2,941	192	1,353	1,396	1,164	2.53
智頭町	7,154	7,031	6,905	6,689	6,520	645	3,084	2,790	2,464	2.65
八頭町	16,985	16,687	16,421	16,253	15,961	1,864	8,423	5,666	5,433	2.94
三朝町	6,490	6,393	6,311	6,205	6,108	711	2,989	2,408	2,260	2.70
湯梨浜町	16,550	16,347	16,298	16,238	16,108	2,285	8,707	5,113	5,653	2.85
琴浦町	17,416	17,187	17,010	16,757	16,525	2,009	8,482	5,960	5,829	2.83
北栄町	14,820	14,718	14,542	14,406	14,251	1,796	7,484	4,971	4,894	2.91
日吉津村	3,439	3,459	3,499	3,573	3,497	512	1,976	999	1,218	2.87
大山町	16,470	16,308	16,024	15,846	15,690	1,765	7,594	6,326	5,315	2.95
南部町	10,950	10,874	10,767	10,615	10,479	1,212	5,384	3,880	3,544	2.96
伯耆町	11,118	11,045	10,881	10,737	10,667	1,273	5,195	4,195	3,648	2.92
日南町	4,765	4,637	4,458	4,316	4,192	301	1,699	2,192	1,782	2.35
日野町	3,278	3,188	3,101	2,994	2,906	189	1,261	1,456	1,211	2.40
江府町	3,004	2,950	2,891	2,790	2,712	205	1,190	1,317	956	2.84

2 年齢3区分別人口

(1) 年少人口

年少人口は前年と比べ伯耆町で増加、年少人口割合は前年と比べ4町で上昇

年少人口は鳥取市が24,138人と最も多く、次いで米子市が19,424人となった。前年と比べると、伯耆町で増加し、湯梨浜町で増減なし、その他の市町村で減少した。

年少人口割合は日吉津村が14.7%と最も高く、次いで湯梨浜町が14.2%となった。前年と比べると、湯梨浜町、大山町、伯耆町及び日南町で上昇し、倉吉市、八頭町、琴浦町及び江府町で同水準、鳥取市など11市町村で低下した。

(図14、統計表第10表、10-1表、10-2表、10-3表)

(2) 生産年齢人口

生産年齢人口は前年と比べすべての市町村で減少、生産年齢人口割合は前年と比べ日野町を除くすべての市町村で低下

生産年齢人口は鳥取市が108,255人と最も多く、次いで米子市が83,445人となった。前年と比べると、すべての市町村で減少した。

生産年齢人口割合は鳥取市が57.9%と最も高く、次いで米子市が57.3%となった。前年と比べると、日野町を除くすべての市町村で低下した。

(図14、統計表第10表、10-1表、10-2表、10-3表)

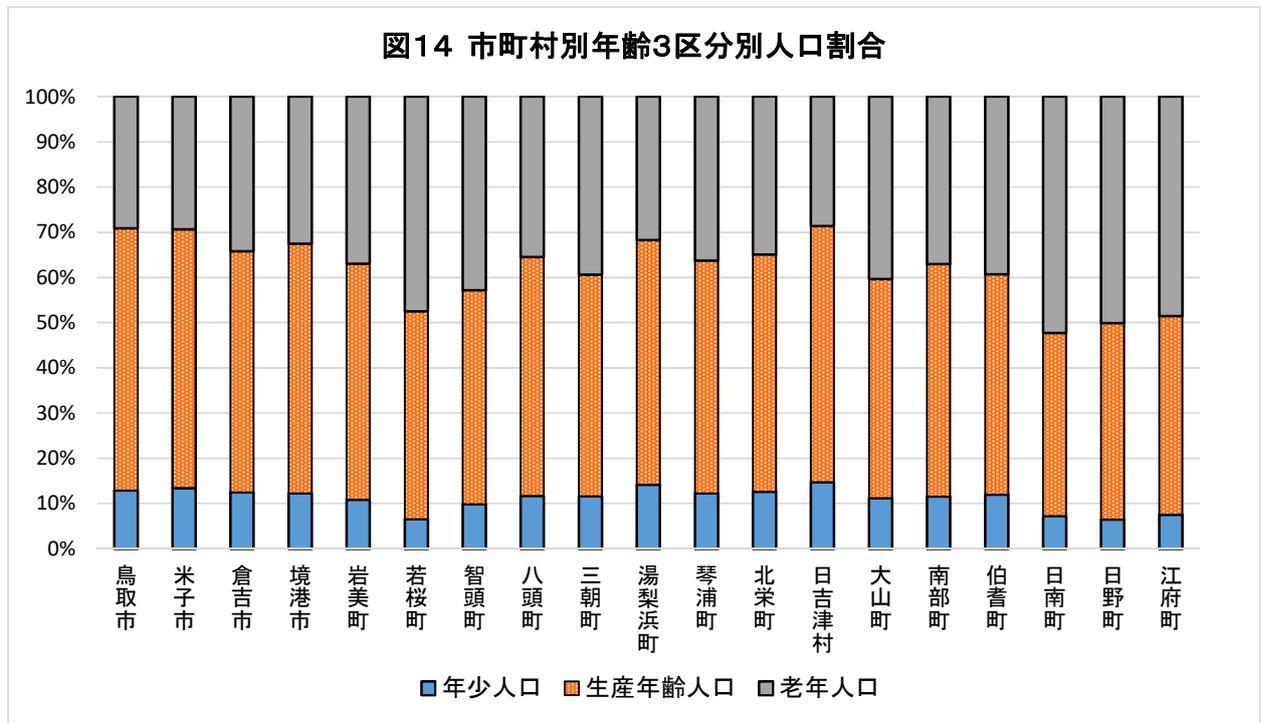
(3) 老年人口

老年人口は前年と比べ12市町村で増加、老年人口割合は前年と比べすべての市町村で上昇

老年人口は鳥取市が54,437人と最も多く、次いで米子市が42,690人となった。前年と比べると、鳥取市など12市町村で増加し、境港市など7市町で減少した。

老年人口割合は日南町が52.3%と最も高く、次いで日野町が50.1%となった。前年と比べると、全市町村で上昇した。

(図14、統計表第10表、10-1表、10-2表、10-3表)



IV 市町村人口動態

1 人口増減

すべての市町村で人口が減少

令和元年（平成30年10月～令和元年9月）の1年間の市町村別の人口増減をみると、すべての市町村で減少し、最も減少したのは鳥取市の1,350人（自然減少907人、社会減少443人）で、次いで米子市が595人（自然減少382人、社会減少213人）、倉吉市が496人（自然減少398人、社会減少98人）、境港市が307人（自然減少279人、社会減少28人）であった。

また、増減率をみると、すべて市町村で減少し、最も減少したのは若桜町の3.73%で、次いで日野町が2.94%、日南町が2.87%、江府町が2.80%であった。（表5、統計表第8表）

表5 市町村別人口増減

（単位：人）

	自然増減			社会増減			人口増減数
	出生数	死亡数	増減数	転入者数	転出者数	増減数	
県計	4,065	7,615	-3,550	16,351	17,655	-1,304	-4,854
鳥取市	1,372	2,279	-907	4,723	5,166	-443	-1,350
米子市	1,287	1,669	-382	4,980	5,193	-213	-595
倉吉市	344	742	-398	1,329	1,427	-98	-496
境港市	228	507	-279	1,364	1,392	-28	-307
岩美町	66	185	-119	296	366	-70	-189
若桜町	14	76	-62	66	118	-52	-114
智頭町	28	113	-85	167	251	-84	-169
八頭町	83	288	-205	397	484	-87	-292
三朝町	22	99	-77	160	180	-20	-97
湯梨浜町	143	261	-118	524	536	-12	-130
琴浦町	115	287	-172	480	540	-60	-232
北栄町	97	217	-120	345	380	-35	-155
日吉津村	33	37	-4	174	246	-72	-76
大山町	81	269	-188	479	447	32	-156
南部町	46	163	-117	272	291	-19	-136
伯耆町	70	161	-91	337	316	21	-70
日南町	19	132	-113	108	119	-11	-124
日野町	9	71	-62	92	118	-26	-88
江府町	8	59	-51	58	85	-27	-78

2 自然動態

(1) 市町村別自然動態

自然増減数はすべての市町村で減少

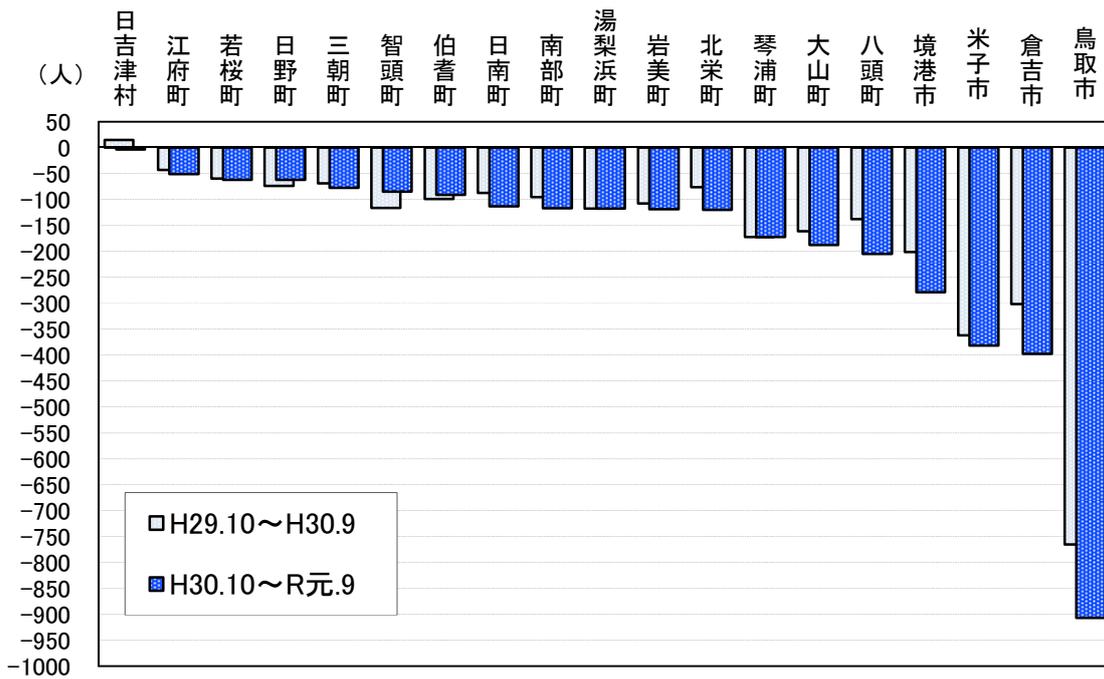
自然増減数を市町村別にみると、前年唯一増加した日吉津村を含むすべての市町村で減少した。

最も多く減少したのは鳥取市の907人（出生数1,372人、死亡数2,279人）で、次いで倉吉市が398人（出生数344人、死亡数742人）となった。

自然増減率（対1,000人比）をみると、すべての市町村で減少し、最も減少したのは日南町の27.0%で、次いで日野町の21.3%となった。

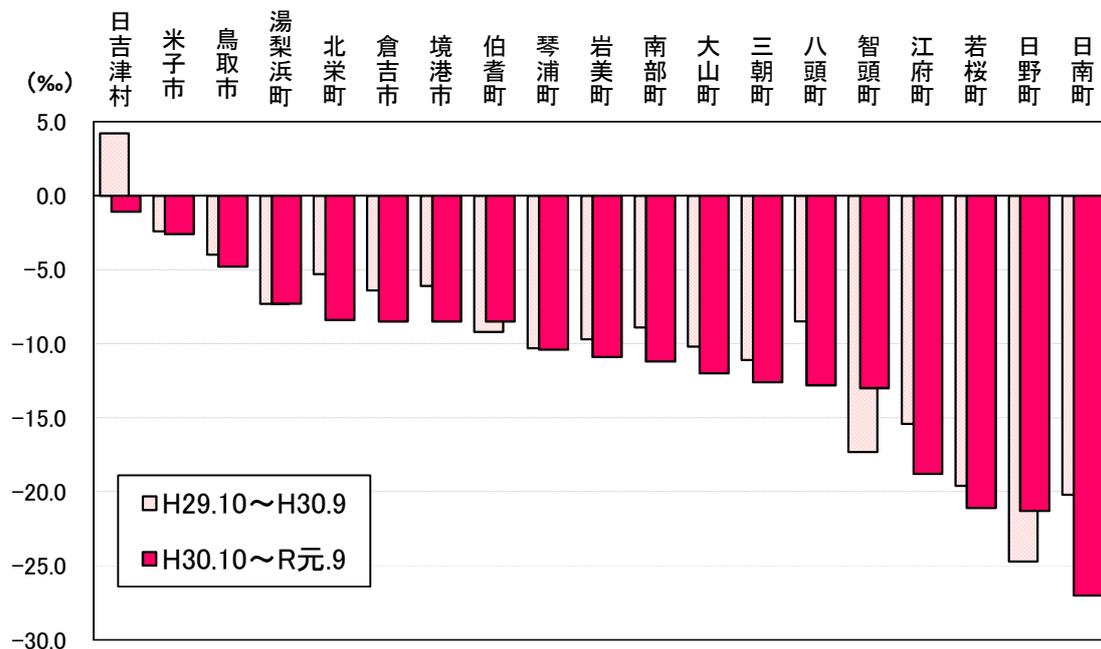
（図15-1、図15-2、統計表第11表）

図15-1 市町村別自然増減数



※各年の数値は前年10月～当年9月の集計による

図15-2 市町村別自然増減率



※各年の数値は前年10月～当年9月の集計による

(2) 月別自然動態

出生数は10月の鳥取市の146人、死亡数は6月の鳥取市の230人が最も多い。

月別にみると、出生数は10月の鳥取市の146人（総出生数に占める割合3.6%）が最も多く、次いで6月の鳥取市の132人（同3.2%）、8月の米子市の122人（同3.0%）となった。

死亡数は1月の鳥取市の230人（総死亡数に占める割合3.0%）が最も多く、次いで3月の鳥取市の212人（同2.8%）、11月の鳥取市の208人（同2.7%）となった。

(表6)

(3) 男女別自然動態

男女の出生数・死亡数とも鳥取市が最も多かった。

市町村別の男女別をみると、男性の出生数は鳥取市が705人と最も多く、次いで米子市が700人、倉吉市が184人、境港市が107人であった。死亡数は、鳥取市が1,104人と最も多く、次いで米子市が776人、倉吉市が347人、境港市が251人であった。

女性の出生数は鳥取市が667人と最も多く、次いで米子市が587人、倉吉市が160人、境港市が121人であった。死亡数は、鳥取市が1,175人と最も多く、次いで米子市が893人、倉吉市が395人、境港市が256人であった。

また、最も少なかった出生数は、男性では日野町の2人、女性では江府町の4人、死亡数は、男性では日吉津村の21人、女性では日吉津村の16人であった。

(表6、統計表第11表)

表6 月別男女別自然動態 -H30年10月～R元年9月-

(単位:人)

		計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
県計	出生数	男	2,130	192	189	172	185	148	145	168	184	192	184	191	180
		女	1,935	192	151	139	145	163	141	160	181	159	178	159	167
		小計	4,065	384	340	311	330	311	286	328	365	351	362	350	347
	死亡数	男	3,596	288	322	309	384	276	316	294	292	285	265	308	257
		女	4,019	355	348	334	398	364	330	309	331	278	319	334	319
		小計	7,615	643	670	643	782	640	646	603	623	563	584	642	576
鳥取市	出生数	男	705	73	64	58	53	43	58	48	55	70	58	59	66
		女	667	73	55	46	44	63	51	53	51	62	62	55	52
		小計	1,372	146	119	104	97	106	109	101	106	132	120	114	118
	死亡数	男	1,104	87	108	92	121	96	101	94	90	77	75	89	74
		女	1,175	109	100	108	109	103	111	95	93	75	86	85	101
		小計	2,279	196	208	200	230	199	212	189	183	152	161	174	175
米子市	出生数	男	700	57	73	57	54	54	48	61	57	71	53	69	46
		女	587	57	44	40	45	48	37	52	61	48	52	53	50
		小計	1,287	114	117	97	99	102	85	113	118	119	105	122	96
	死亡数	男	776	57	73	64	86	60	64	77	63	58	52	61	61
		女	893	73	86	67	103	79	69	84	73	66	66	68	59
		小計	1,669	130	159	131	189	139	133	161	136	124	118	129	120
倉吉市	出生数	男	184	18	13	16	15	14	10	20	19	13	22	8	16
		女	160	10	14	17	14	9	14	13	18	9	16	14	12
		小計	344	28	27	33	29	23	24	33	37	22	38	22	28
	死亡数	男	347	35	24	29	43	25	32	22	27	17	41	30	22
		女	395	32	39	28	40	37	30	28	42	29	32	30	28
		小計	742	67	63	57	83	62	62	50	69	46	73	60	50
境港市	出生数	男	107	8	7	11	15	6	4	6	13	4	10	13	10
		女	121	13	8	8	7	9	14	10	14	6	9	9	14
		小計	228	21	15	19	22	15	18	16	27	10	19	22	24
	死亡数	男	251	21	25	29	26	16	13	24	15	23	27	20	12
		女	256	17	23	14	26	28	22	14	23	17	17	28	27
		小計	507	38	48	43	52	44	35	38	38	40	44	48	39

3 社会動態

(1) 市町村別社会動態

社会増減数は大山町及び伯耆町を除く市町村で減少

社会増減数を市町村別にみると、大山町及び伯耆町を除く市町村で減少した。

増加したのは大山が32人（男性17人、女性15人）と最も増加し、次いで伯耆町が21人（男性13人、女性8人）となった。減少したのは鳥取市が443人（男性256人、女性187人）と最も減少し、次いで米子市が213人（男性147人、女性66人）となった。

社会増減率（対1,000人比）は大山町及び伯耆町が2.0‰増加、その他の市町村は減少し、最も減少したのは日吉津村の20.6‰で、次いで若桜町の17.7‰となった。

（図16-1、図16-2、表7、統計表第12表）

図16-1 市町村別社会増減数

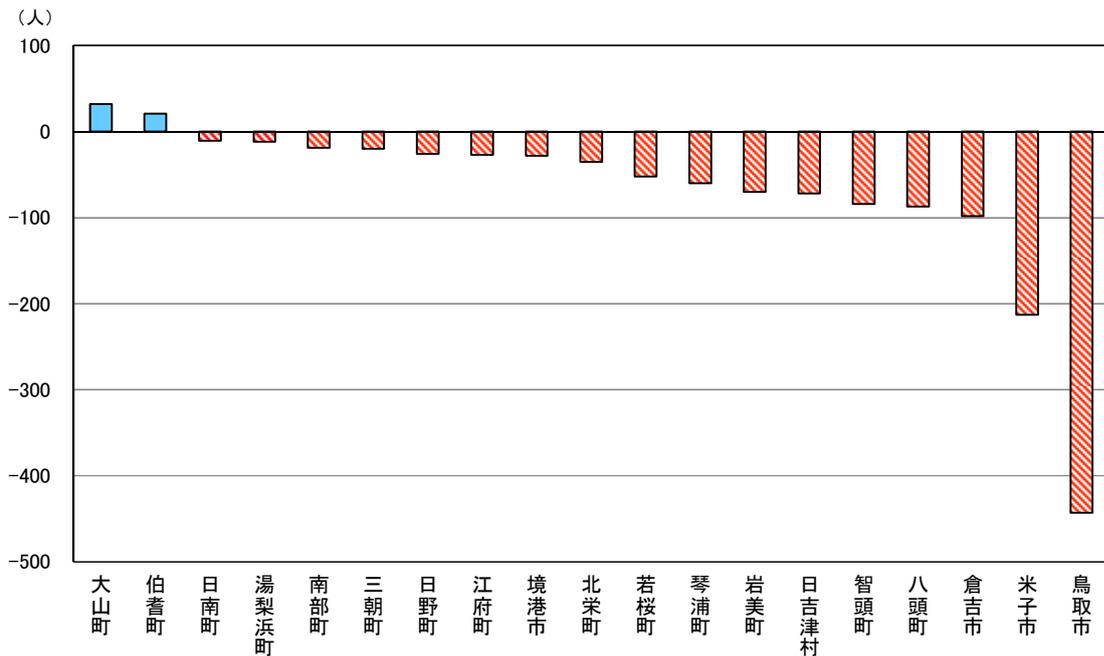


図16-2 市町村別社会増減率

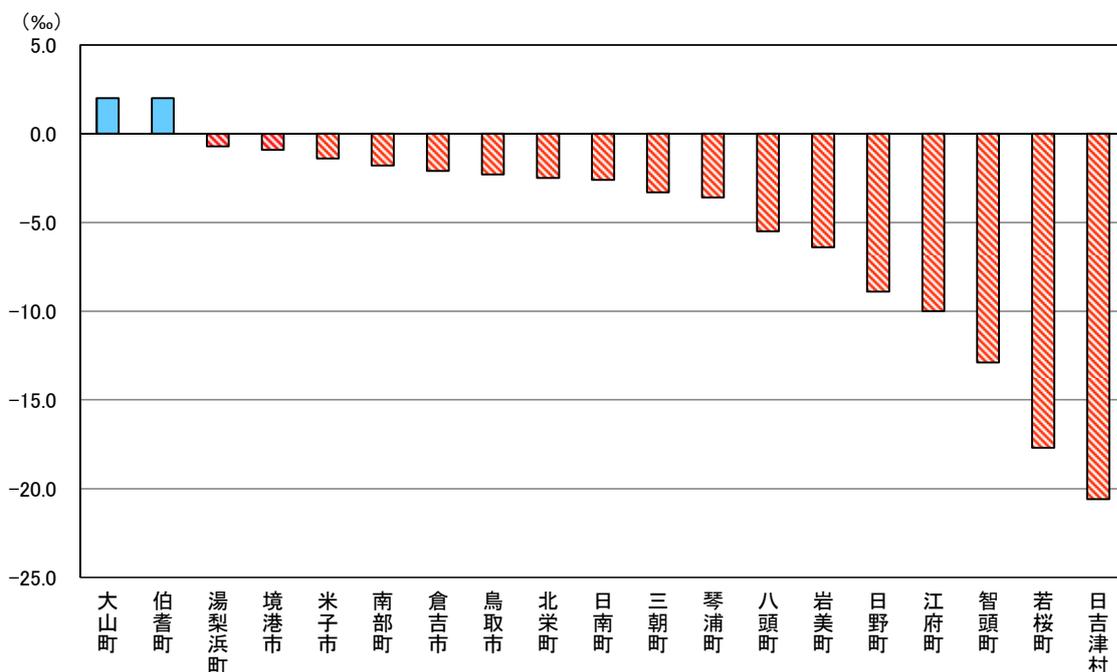


表 7 市町村別社会動態

(単位：人)

	県外			県内			社会増減数
	転入者数	転出者数	転入超過数	転入者数	転出者数	転入超過数	
県計	10,146	11,450	-1,304	6,205	6,205	0	-1,304
東部地区	3,882	4,538	-656	1,767	1,847	-80	-736
中部地区	1,304	1,486	-182	1,534	1,577	-43	-225
西部地区	4,960	5,426	-466	2,904	2,781	123	-343
鳥取市	3,405	3,968	-563	1,318	1,198	120	-443
米子市	3,344	3,749	-405	1,636	1,444	192	-213
倉吉市	639	719	-80	690	708	-18	-98
境港市	969	974	-5	395	418	-23	-28
岩美町	149	185	-36	147	181	-34	-70
若桜町	41	57	-16	25	61	-36	-52
智頭町	102	124	-22	65	127	-62	-84
八頭町	185	204	-19	212	280	-68	-87
三朝町	76	93	-17	84	87	-3	-20
湯梨浜町	185	239	-54	339	297	42	-12
琴浦町	294	277	17	186	263	-77	-60
北栄町	110	158	-48	235	222	13	-35
日吉津村	49	117	-68	125	129	-4	-72
大山町	213	199	14	266	248	18	32
南部町	140	133	7	132	158	-26	-19
伯耆町	114	136	-22	223	180	43	21
日南町	58	52	6	50	67	-17	-11
日野町	38	26	12	54	92	-38	-26
江府町	35	40	-5	23	45	-22	-27

注 1) 転入超過数とは、転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナス (-) の場合は、転出超過を示す。

注 2) 地域別の県内転入者数及び県内転出者数の数値については、地域内市町村間の移動者を含む。

(2) 県内移動

県内移動で最も多いのは鳥取市から米子市への 398 人

県内移動をみると、鳥取市から米子市への 398 人 (男性 229 人、女性 169 人) が最も多く、次いで米子市から鳥取市への 378 人 (男性 219 人、女性 159 人) であった。

県内移動での転入超過は、米子市が 192 人 (男性 107 人、女性 85 人) と最も多く、次いで鳥取市が 120 人 (男性 53 人、女性 67 人) であった。

転出超過は、琴浦町が 77 人 (男性 40 人、女性 37 人) と最も多く、次いで八頭町が 68 人 (男性 45 人、女性 23 人) であった。

また、県内移動を地域区別にみると、東部から西部への 563 人 (男性 314 人、女性 249 人) が最も多く、次いで西部から東部への 521 人 (男性 296 人、女性 225 人)、東部から中部への 369 人 (男性 193 人、女性 176 人) であった。

(図 17、統計表第 13 表)

図17 地域別社会動態(H30年10月～R元年9月)



県外との社会動態(県全体)

県外へ転出 11,450人

県外からの転入 10,146人

注) 地域間移動数は、地域内市町村間の移動者を含まない。

(3) 県外転入・県外転出

県外転入者で最も多いのは、島根県から米子市への750人、県外転出者で最も多いのは、米子市から島根県への670人

県外転入者で最も多いのは、島根県から米子市への750人(男性381人、女性369人)で、次いで兵庫県から鳥取市への394人(男性198人、女性196人)であった。

また、県外転出者で最も多いは、米子市から島根県への670人(男性365人、女性305人)、次いで鳥取市から大阪府への507人(男性261人、女性246人)であった。

県外転入・県外転出での転入超過は、琴浦町の17人(男性-11人、女性28人)が最も多く、次いで大山町14人(男性4人、女性10人)であった。

転出超過は、鳥取市の 563 人（男性 309 人、女性 254 人）が最も多く、次いで米子市 405 人（男性 254 人、女性 151 人）であった。

また、県外転入・県外転出を地域区分別にみると、県外転入者については東部では兵庫県から 458 人（男性 231 人、女性 227 人）が最も多く、次いで大阪府から 372 人（男性 184 人、女性 188 人）、中部では岡山県から 142 人（男性 82 人、女性 60 人）が最も多く、次いで大阪府から 139 人（男性 55 人、女性 84 人）、西部では島根県から 988 人（男性 508 人、女性 480 人）が最も多く、次いで岡山県から 419 人（男性 240 人、女性 179 人）であった。

県外転出者については東部では大阪府へ 598 人（男性 305 人、女性 293 人）が最も多く、次いで兵庫県へ 513 人（男性 258 人、女性 255 人）、中部では大阪府へ 177 人（男性 83 人、女性 94 人）が最も多く、次いで東京都へ 142 人（男性 71 人、女性 71 人）、西部では島根県へ 927 人（男性 491 人、女性 436 人）が最も多く、次いで大阪府へ 452 人（男性 215 人、女性 237 人）であった。（表8、統計表第14表）

表8 都道府県別県外転入・転出者数(上位市町村)

(単位:人)

都道府県	転入					転出				
	総数	米子市	鳥取市	境港市	その他	総数	米子市	鳥取市	境港市	その他
島根県	1,374	750	268	162	194	1,339	670	283	153	233
岡山県	900	321	301	104	174	963	384	327	75	177
大阪府	893	305	265	66	257	1,227	507	320	74	326
兵庫県	849	394	200	62	193	929	434	219	66	210
広島県	743	287	275	46	135	870	324	290	59	197
東京都	603	209	176	63	155	1,020	377	325	79	239

(4) 4市における年齢5歳階級別、男女別県外転入転出

県外転入者は倉吉市を除き 20～24 歳が最も多く、県外転出者は4市とも 20～24 歳が最も多い。

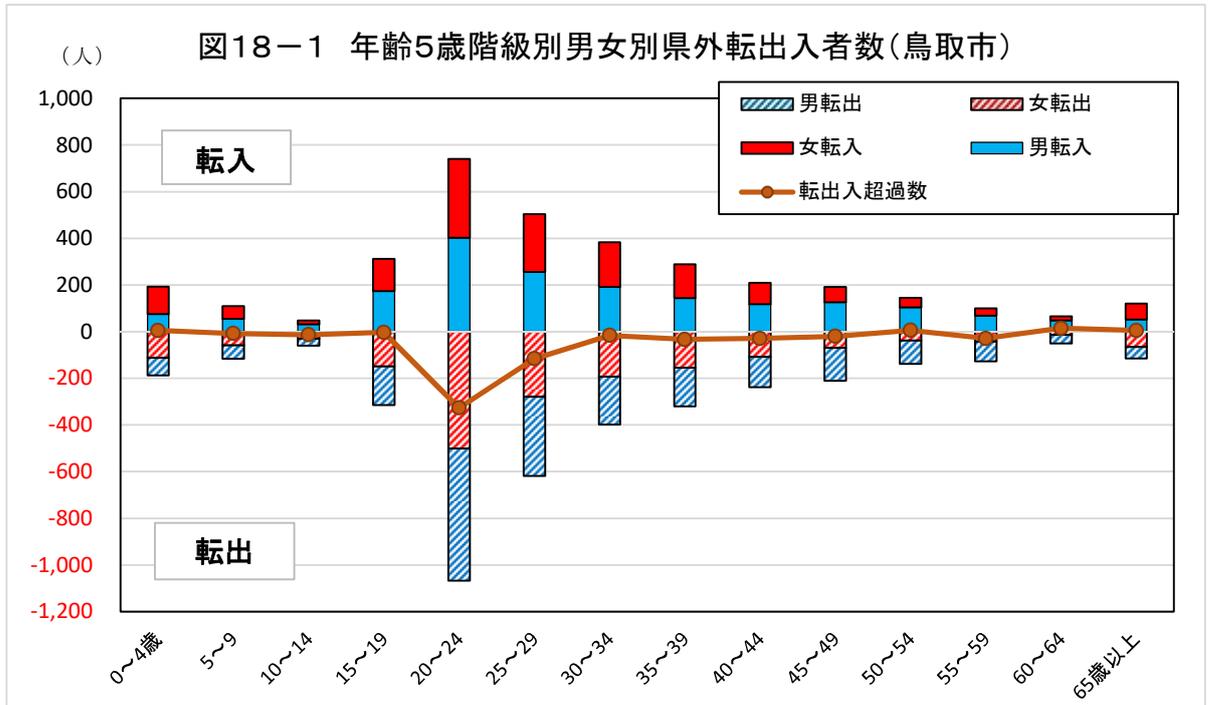
【鳥取市】

県外転入者は、20～24 歳が 740 人（男性 402 人、女性 338 人、県外転入者総数に占める割合 7.3%）と最も多く、次いで 25～29 歳が 503 人（男性 255 人、女性 248 人、同 5.0%）となった。

県外転出者は、20～24 歳が 1,067 人（男性 566 人、女性 501 人、県外転出者総数に占める割合 9.3%）と最も多く、次いで 25～29 歳が 619 人（男性 340 人、女性 279 人、同 5.4%）となった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、60～64 歳が 15 人（男性 11 人、女性 4 人）と最も多く、次いで 50～54 歳が 6 人（男性 4 人、女性 2 人）及び 65～69 歳が 6 人（男性 7 人、女性-1 人）となった。

転出超過数は、20～24 歳が 327 人（男性 164 人、女性 163 人）と最も多く、次いで 25～29 歳が 116 人（男性 85 人、女性 31 人）となった。（図18-1、統計表第15表）



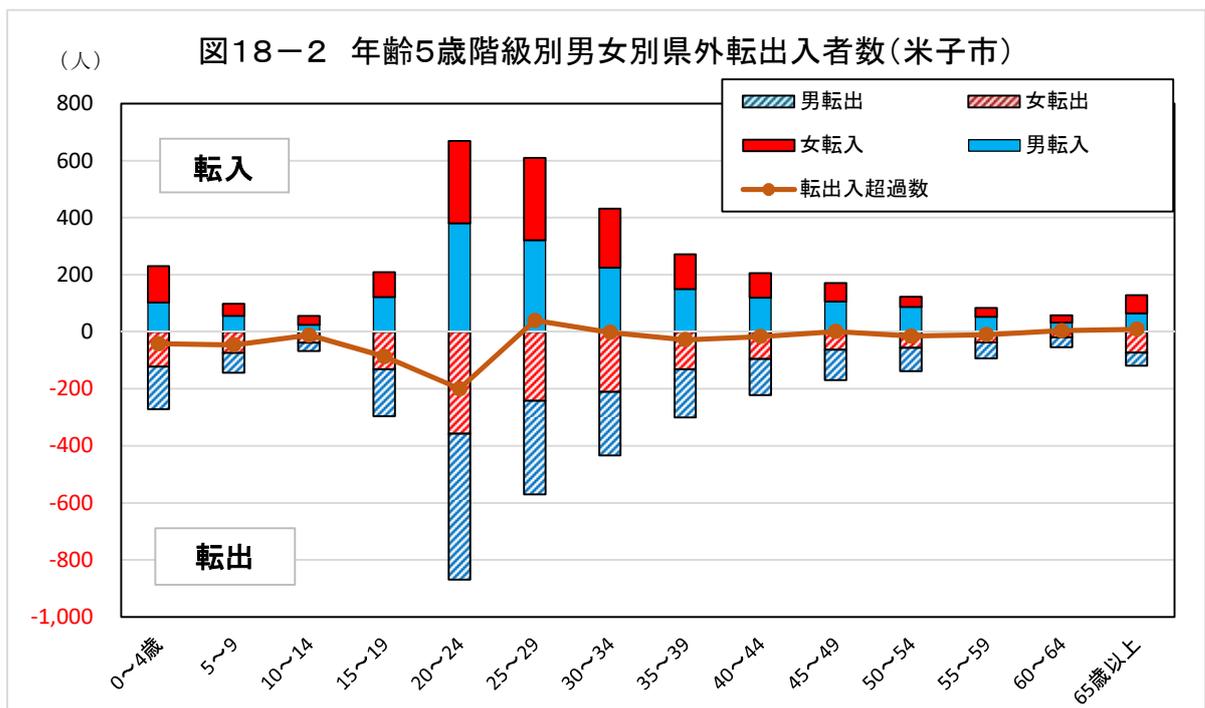
【米子市】

県外転入者は、20~24歳が669人（男性380人、女性289人、同6.6%）と最も多く、次いで25~29歳が610人（男性321人、女性289人、同6.0%）となった。

県外転出者は、20~24歳が869人（男性511人、女性358人、同7.6%）と最も多く、次いで25~29歳が570人（男性328人、女性242人、同5.0%）となった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、25~29歳が40人（男性-7人、女性47人）と最も多く、次いで60~64歳が4人（男性-2人、女性6人）、65~69歳が4人（男性6人、女性-2人）及び70~74歳が4人（男性5人、女性-1人）となった。

転出超過数は、20~24歳が200人（男性131人、女性69人）と最も多く、次いで15~19歳が87人（男性42人、女性45人）となった。（図18-2、統計表第15表）



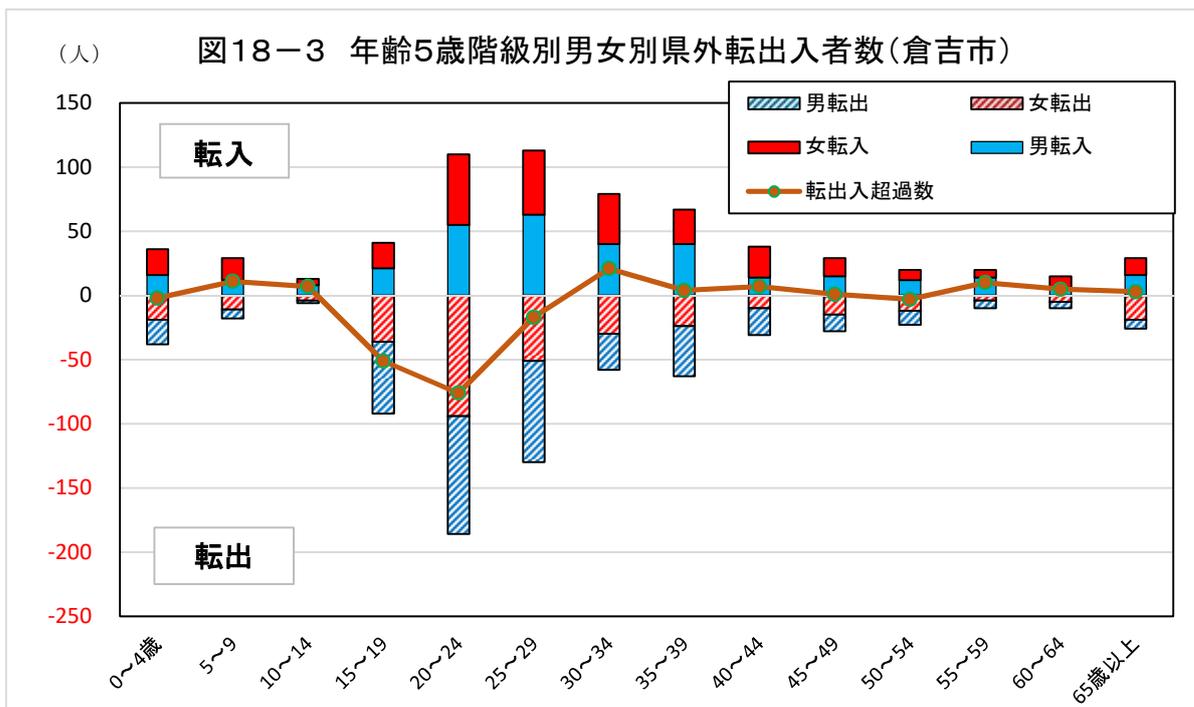
【倉吉市】

県外転入者は、25～29歳が113人（男性63人、女性50人、同1.1%）と最も多く、次いで20～24歳が110人（男性55人、女性55人、同1.1%）となった。

県外転出者は、20～24歳が186人（男性92人、女性94人、同1.6%）と最も多く、次いで25～29歳が130人（男性79人、女性51人、同1.1%）となった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、30～34歳が21人（男性12人、女性9人）と最も多く、次いで5～9歳が11人（男性5人、女性6人）となった。

転出超過数は、20～24歳が76人（男性37人、女性39人）と最も多く、次いで15～19歳が51人（男性35人、女性16人）となった。（図18-3、統計表第15表）



【境港市】

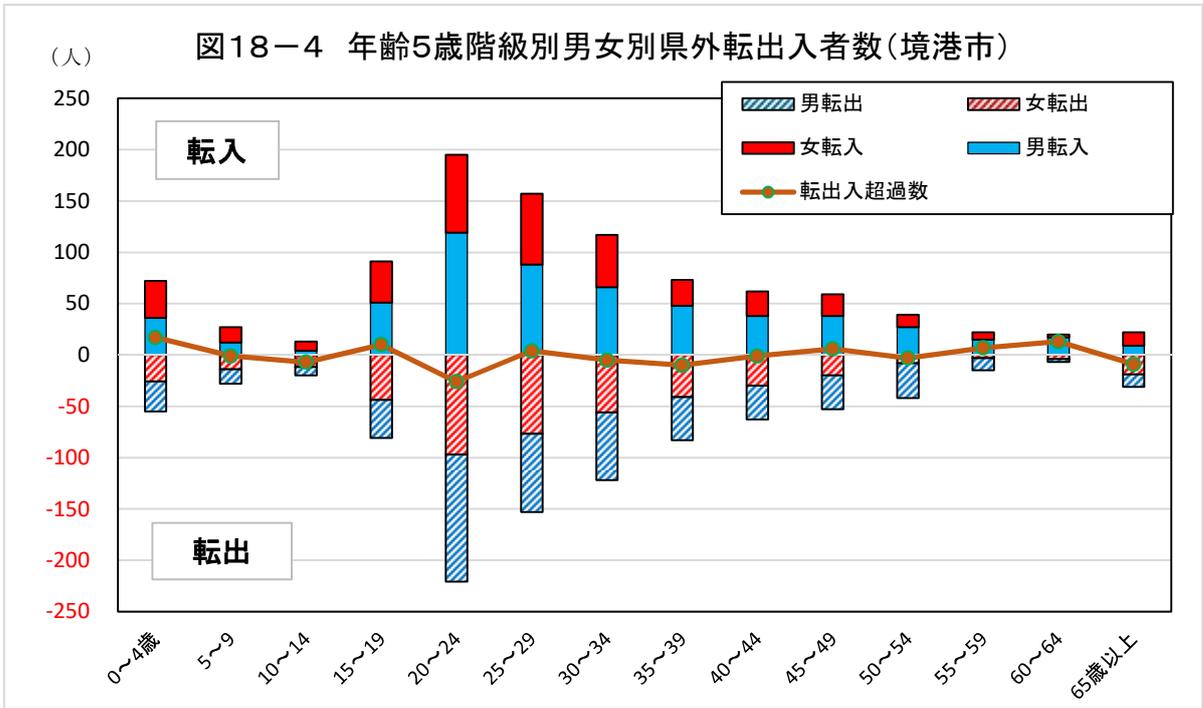
県外転入者は、20～24歳が195人（男性119人、女性76人、同1.9%）と最も多く、次いで25～29歳が157人（男性88人、女性69人、同1.5%）となった。

県外転出者は、20～24歳が221人（男性124人、女性97人、同1.9%）と最も多く、次いで25～29歳が153人（男性76人、女性77人、同1.3%）となった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数では、0～4歳が17人（男性7人、女性10人）と最も多く、次いで60～64歳の13人（男性14人、女性-1人）となった。

転出超過数は、20～24歳が26人（男性5人、女性21人）と最も多く、次いで35～39歳が10人（男性-6人、女性16人）となった。（図18-4、統計表第15表）

图18-4 年龄5岁阶段别男女别県外転出入者数(境港市)



<参考> 外国人の推計人口

1 推計人口と世帯数

- ・令和元年10月1日現在の推計人口（国籍不詳を含む。以下同じ。）は、6,848人で前年に比べ502人増加
- ・男女別人口は、男性2,749人、女性4,099人で、人口性比は67.1（P.3表1）

2 年齢別3区分別人口

- ・年少人口は292人、生産年齢人口は4,946人、老年人口は524人
- ・年少人口割合は5.1%、生産年齢人口割合は85.8%、老年人口割合は9.1%
- ・年齢5歳階級別人口は、男女とも20～24歳が最も多く（男性449人、女性632人）次いで男女とも25～29歳が多い（男性346人、女性519人）（P.6表2、表3）

3 市町村別推計人口

- ・市町村別の推計人口は、鳥取市の1,996人（男性953人、女性1,043人）が最も多く、次いで米子市の1,832人（男性673人、女性1,159人）であった。（表9）

表9 市町村別推計人口、年齢3区分別人口

(単位:人)

区分	推計人口			年齢3区分別人口		
	総数	男	女	年少人口	生産年齢人口	老年人口
県計	6,848	2,749	4,099	292	4,946	524
鳥取市	1,996	953	1,043	118	1,703	175
米子市	1,832	673	1,159	119	1,495	218
倉吉市	361	151	210	16	314	31
境港市	453	114	339	11	393	49
岩美町	110	49	61	2	108	0
若桜町	56	1	55	0	56	0
智頭町	62	5	57	0	62	0
八頭町	70	13	57	1	67	2
三朝町	61	21	40	7	52	2
湯梨浜町	84	17	67	3	79	2
琴浦町	217	64	153	3	200	14
北栄町	94	20	74	3	89	2
日吉津村	31	13	18	1	20	10
大山町	110	43	67	5	93	12
南部町	92	37	55	0	90	2
伯耆町	62	16	46	2	56	4
日南町	34	26	8	0	33	1
日野町	26	3	23	1	25	0
江府町	11	0	11	0	11	0
不詳	1,086	530	556	—	—	—

注)年齢3区分人口に年齢不詳は含まない。

注)推計人口は国籍不詳も含む。

4 自然動態

- ・出生数は20人（男性10人、女性10人）
- ・死亡数は12人（男性7人、女性5人）（表10）

表10 自然動態(外国人)

(単位:人)

月次	出生			死亡		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	20	10	10	12	7	5
10月	3	1	2	2	1	1
11月	1	1	0	2	2	0
12月	1	0	1	1	0	1
1月	1	1	0	0	0	0
2月	1	0	1	2	1	1
3月	3	2	1	0	0	0
4月	2	1	1	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0
6月	3	1	2	1	0	1
7月	1	1	0	0	0	0
8月	2	1	1	1	1	0
9月	2	1	1	3	2	1

5 社会動態

(1) 県内移動

- ・県内移動者数は132人（男性49人、女性83人）
- ・転入が最も多いのは倉吉市の53人（男性22人、女性31人）
- ・転入超過数は、倉吉市の39人（男性20人、女性19人）が最も多く、転出超過は、琴浦町の25人（女性25人）が最も多い

(2) 県外転入・県外転出

- ・県外転入者数は1,650人（男性693人、女性957人）で、県外転出者数は1,156人（男性499人、女性657人）
- ・県外転入者数で最も多いのは、鳥取市の587人（男性271人、女性316人）で、次いで米子市の324人（男性133人、女性191人）
- ・県外転出者数で最も多いのは、鳥取市の403人（男性177人、女性226人）で、次いで境港市の164人（男性56人、女性108人）
- ・転入超過数で最も多いのは、鳥取市の184人（男性94人、女性90人）で、次いで米子市の168人（男性53人、女性115人）（表11）

表11 市町村別社会動態(外国人)

(単位:人)

	県外							県内							社会増減数
	転入者数			転出者数			転入超過数	転入者数			転出者数			転入超過数	
	総数	男	女	総数	男	女		総数	男	女	総数	男	女		
県計	1,650	693	957	1,156	499	657	494	132	49	83	132	49	83	0	494
東部地区	675	299	376	469	206	263	206	29	6	23	28	21	7	1	207
中部地区	315	99	216	215	73	142	100	68	26	42	55	9	46	13	113
西部地区	660	295	365	472	220	252	188	35	17	18	49	19	30	-14	174
鳥取市	587	271	316	403	177	226	184	23	6	17	25	19	6	-2	182
米子市	324	133	191	156	80	76	168	14	4	10	20	6	14	-6	162
倉吉市	88	42	46	49	27	22	39	53	22	31	14	2	12	39	78
境港市	152	64	88	164	56	108	-12	12	10	2	4	1	3	8	-4
岩美町	30	16	14	37	17	20	-7	5	0	5	0	0	0	5	-2
若桜町	9	1	8	3	2	1	6	0	0	0	0	0	0	0	6
智頭町	16	2	14	14	6	8	2	0	0	0	2	1	1	-2	0
八頭町	33	9	24	12	4	8	21	1	0	1	1	1	0	0	21
三朝町	20	5	15	28	7	21	-8	3	1	2	1	0	1	2	-6
湯梨浜町	27	8	19	25	3	22	2	9	2	7	1	0	1	8	10
琴浦町	158	36	122	94	30	64	64	1	1	0	26	1	25	-25	39
北栄町	22	8	14	19	6	13	3	2	0	2	13	6	7	-11	-8
日吉津村	6	0	6	35	21	14	-29	0	0	0	1	0	1	-1	-30
大山町	90	55	35	43	28	15	47	3	1	2	22	12	10	-19	28
南部町	47	29	18	36	26	10	11	0	0	0	1	0	1	-1	10
伯耆町	13	5	8	21	4	17	-8	2	1	1	0	0	0	2	-6
日南町	10	9	1	6	5	1	4	2	0	2	1	0	1	1	5
日野町	13	0	13	3	0	3	10	2	1	1	0	0	0	2	12
江府町	5	0	5	8	0	8	-3	0	0	0	0	0	0	0	-3

注) 転入超過数とは、転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナス(-)の場合は、転出超過を示す。

注) 地域別の県内転入者数及び県内転出者数の数値については、地域内市町村間の移動者を含む。